

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
京都府中京警察署(仮称)庁舎

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質						3.2	
Q1 室内環境			0.40			2.8	
1 音環境		3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-		
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-		
2 設備騒音対策		-	-	-	-		
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	-		
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境		2.6	0.35	-	-	2.6	
2.1 室温制御		2.2	0.50	-	-		
1 室温設定		1.0	0.38	3.0	-		
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-		
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-		
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	3.0	-		
5 温度・湿度制御		-	-	-	-		
6 個別制御		-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-		
8 監視システム		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境		2.6	0.25	-	-	2.6	
3.1 屋光利用		1.8	0.30	-	-		
1 屋光率		1.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口		3.0	-	3.0	-		
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-		
1 照明器具のグレア		-	-	-	-		
2 屋光制御		3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度		3.0	0.15	-	-		
1 照度		3.0	1.00	3.0	-		
2 照度均斉度		-	-	-	-		
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境		3.4	0.25	-	-	3.4	
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		床・壁・天井・造作・天井裏には規制対象外又はF☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-		
4 レジオネラ対策		-	-	-	-		
4.2 換気		2.0	0.30	-	-		
1 換気量		30立方メートル(建築物衛生法基準の1.2倍、建基法基準の1.5倍)	4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		1.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	3.0	-		
4 給気計画		-	-	-	-		
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		喫煙室設置、天井裏含め他室と区画、専用排気(常時負圧)	5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.4	
1 機能性		2.9	0.40	-	-	2.9	
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		1.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	3.0	-		
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		1.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		2F喫煙室、2F食堂(リフレッシュルーム)、1F自販機コーナー	5.0	0.33	3.0	-	
3 内装計画		取組み数:3	4.0	0.33	3.0	-	
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		取組み数:6	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性		4.0	0.31	-	-	4.0	
2.1 耐震・免震		4.6	0.48	-	-		
1 耐震性		重要度係数1.5	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種のうち、Bが2種、Cが1種	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新				-	-	-	-
2.4 信頼性			4.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	総合操作盤あり、取組み数:2	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	取組み数:3	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	取組み数:3	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA相当(総合耐震計画基準耐震安全性分類:甲類)	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	取組み数:3	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	3.95~4.6m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.21	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		評価ポイント:5	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制		事務所、PAL=227.3	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=14.3	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1	節水	自動水栓(節水機器)使用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.6	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用あり(植栽散水)	4.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	ビニル床材、カーペット、太陽熱給湯器、消火器、再生路盤材	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	執務室にはパネル式OAフロア使用	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22	-	-	4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	接着剤、シーリング材にて確認(計4種)	5.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.68	-	-	
1	消火剤	設置設備:消火器(粉末)←ハロン無し	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材	ODP=0かつGWP=1~23の発泡剤を使用した断熱材	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		自動計算に依る	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.6	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	評価ポイント:3	4.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	